様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：１６１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０１１９４

研究課題名（和文）「学校伝承」という戦術－民俗芸能伝承の実践コミュニティの創成と動態に関する研究

研究課題名（英文）Cooperation between Community and School in Succession of Folk Performing Arts: from the Viewpoint of Community of Practice

研究代表者
高橋　晋一（TAKAHASHI, Shinichi）

徳島大学・大学院社会産業理工学研究部（社会総合科学域）・教授

研究者番号：１０２３６２８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：　民俗芸能の「学校伝承」における地域と学校の連携（伝承）のパターンには、学校と地域の保存団体が連携して伝承を行うタイプ（連携型）、学校と地域の保存団体がそれぞれ分かれて民俗芸能を伝承するタイプ（分離型）、学校のみで伝承するタイプ（学校単独型）の３タイプがあることが明らかになった。民俗芸能の学校伝承では、地域（保存会）の民俗芸能伝承に対する思いと、学校が地域の思いを受け止めつつ、何を目的としてどのような形で民俗芸能を受け入れるかという課題が交錯する中で、互いの条件を擦り合わせ、各現場の状況に適した持続可能な民俗芸能の伝承の形を模索している。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の学術的意義は、学校伝承の導入にともなう民俗芸能の変化（再編）、新たな伝承システム（実践コミュニティ）創成のプロセスを、関係する諸アクター間の相互作用・交渉というミクロな視点をふまえ分析し、そのプロセスの構造（パターン）を明らかにした点にある。また、本研究で得られた知見（学校伝承のパターン）は、地域の状況を踏まえた民俗芸能の継承手法として各地の事例に応用が可能であり、この点が本研究の大きな社会的意義と言える。

研究成果の概要（英文）：　There are three types of cooperation between community and school in succession of folk performing arts: the type in which school and local community cooperate each other (collaborative type), the type in which school and local community are separated to pass on folk performing arts (separate type). and the type that is handed down only at school (school-only type). In the school succession of folk performing arts, the thought of the community about folk performing arts succession and the issues of how schools should accept folk performing arts are intertwined, and school and local community are searching for a form of sustainable folk performing arts succession suitable for the situation of each site.

研究分野：民俗学

キーワード：民俗芸能　学校　伝承　教育　コミュニティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、過疎化、少子高齢化等の要因により、地域における祭りや民俗芸能の伝承が困難になってきている。こうした状況において、さまざまな伝承の工夫（戦術）が各地域で実践されているが、学校との連携（生徒の参加）に基づき、地域（氏子）という枠を超えた新たな伝承の実践コミュニティ（レイヴ&ウェンガー、1993）を構築する「学校伝承」という方法が各地で注目されている。民俗芸能の「学校伝承」については、教育学・民俗学の視点から個別の事例研究がなされているが、新たな伝承の形が「創られる」という重要な視点が欠落している。本研究では「学校伝承」の導入にともなう民俗芸能の変化（再編）、新たな伝承システム（実践コミュニティ）創成のプロセスを、関係する諸アクター間の相互作用・交渉というミクロな視点をふまえ分析する。さらに諸事例の比較に基づき「学校伝承」という戦術（セルトー、2021）の可能性／課題を検討し、持続可能な民俗芸能伝承のあり方を考える。

２．研究の目的

本研究の目的は、「学校伝承」の導入にともなう民俗芸能の変化（再編）、新たな伝承システム（実践コミュニティ）創成のプロセスを、関係する諸アクター間の相互作用・交渉というミクロな視点をふまえ分析することにある。具体的には徳島県における「学校伝承」の事例（表１に示した 12 例）を中心に検討を行う。

表１　徳島県内における民俗芸能の学校伝承の事例

No.	民俗芸能の名称	現在の伝承母体	学校と地域との関係	学校での伝承形態	児童・生徒や保存団体の披露の場	伝承パターン
1	入田の獅子舞（徳島市入田町）	入田小学校生徒（5、6 年生）、西大原獅子舞保存会	保存会が指導	総合的な学習の時間として	学習発表会 春日神社例祭	連携型
2	高川原の勇獅子（名西郡石井町高川原）	高川原勇獅子保存会、高川原小学校生徒および卒業生	保存会が指導（保存会会員の一部は小学校教員）	総合的な学習の時間	学習発表会 三社神社例祭 福祉会館祭り	連携型
3	高原の獅子舞（名西郡石井町高原）	高原小学校	なし。教員が指導	総合的な学習の時間	学習発表会	学校単独型
4	案内神社の獅子舞（阿波市吉野町）	吉野中学校生徒	なし。ほぼ学校の教員が指導	部活動（郷土芸能クラブ）	案内神社例祭 文化祭 敬老会など	学校単独型
5	じょうれい踊り（阿波市市場町大俣）	大俣小学校生徒（2001 年～）、婦人会、じょうれい踊り保存会	保存会が指導	運動会のプログラムとして	運動会 各種イベント	連携型
6	坂外獅子舞（美馬郡つるぎ町半田）	半田中学校生徒、坂外獅子舞保存会	保存会が指導	授業時間に練習	運動会 敬老会、桜フェスティバルなど各種イベント	連携型
7	一宇の雨乞い踊り（美馬郡つるぎ町一宇→貞光）	貞光中学校生徒約 20 名、一宇雨乞い踊り保存会	保存会が指導	部活動（郷土芸能倶楽部） 総合的な学習の時間	文化祭 各種イベント	連携型（旧伝承地域からは分離）
8	木屋平の獅子舞（美馬市木屋平）	木屋平中学校生徒（2005 年～）、木屋平小学校生徒（生徒減少に伴い 2018 年～）	教員が指導	総合的な学習の時間	文化祭 各種イベント	学校単独型
9	足代の獅子舞（三好郡東みよし町足代）	足代小学校生徒（3、4 年生）、足代獅子舞保存会約 30 名	なし。学校と地域それぞれで伝承	総合的な学習の時間	運動会、敬老会、その他各種イベント 貴船神社例祭、八幡神社例祭	分離型
10	木頭の太刀踊り（那賀町木頭和無田）	木頭小・中学校（7～9 年生）	保存会が指導		和無田八幡神社例祭	学校単独型
11	立江八幡神社祇園囃子（小松島市立江町）	立江祇園囃子伝承教室	保存会が指導	立江小学校校区の伝承教室（授業ではない）	立江八幡神社例祭	連携型
12	船津の太刀踊り（海部郡海陽町）	宍喰小学校生徒、保存会	主に教員が指導。民俗芸能大会などの前には保存会が指導	運動会のプログラムとして	運動会 宍喰民俗芸能大会	連携型

３．研究の方法

本研究は、徳島県内における民俗芸能の「学校伝承」の実践事例を研究対象とする。それぞれの民俗芸能に関わる諸アクターへの詳細な聞き取り調査、祭りなど上演の場の観察調査、文献研

究を併用して、各伝承地域における「学校伝承」の導入にともなう民俗芸能の形態の変化、伝承システムの変化（創成、再編成）のプロセスを丁寧にトレースする。事例の比較検討を通じて、「学校伝承」という手法の多様性とその背後にある要因（メカニズム）を指摘、また民俗芸能の伝承戦術としての「学校伝承」の可能性と課題について論じる。

４．研究成果

徳島県内の事例により、民俗芸能の学校伝承における地域側（保存会や地域住民）と学校側（教員・生徒）という二つの主体の多様な連携・協働のあり方の検討を踏まえ、現在見るような学校伝承の形に至るプロセスや、それぞれの実践の形を決定する要因について検討を行った。学校では、地域の民俗芸能による教育的効果を考え、授業や部活動の一環として取り入れてきた。しかし、学校や民俗芸能を取り巻く状況は地域によってさまざまであり、その伝承の実践の形や、地域との学校との関係は多様な展開を見せている。

今回のすべての調査事例において、地域での民俗芸能伝承が困難になり、学校に支援を求めることから学校伝承が始まっている。地域側（保存会）が、現在の状況／将来の見通しを踏まえ、学校と連携しつつ地域中心に伝承を続けることができるかどうか、あるいは伝承の主体を学校に移行するか、学校側に伝承に関わる余裕があるか、といった観点を踏まえ、学校側に学校伝承の実践を要請／交渉する。一方、学校側は、カリキュラムや時間の制約の中で、民俗芸能をどのような形でどこまで受け入れられるかという判断を行っていく。このときの学校側の判断は、学校伝承の実践の形を決める大きな要素となる。

学校側は、学校内での民俗芸能の位置づけを明確にした上で、芸態の簡略化、演出の変化、演目の省略など、民俗芸能の形を「現場」に合った形に改変して伝承に取り組んでいる。教員の仕事との兼ね合いもあり、民俗芸能の学校伝承は、学校側にとっては負担になることが多い。民俗芸能を学校に合った形、伝承を継続しやすい形に変形することは、学校側にとって本来の教育機能を維持する上で必要不可欠な措置と言える。

地域の状況をベースに、学校側が民俗芸能をどのように扱うかを判断し、その上で、地域が民俗芸能の指導や道具の準備など学校に提供できるもの、学校は、民俗芸能の難易度なども加味しながら、どのような子どもたちが伝承に携わるか、民俗芸能にかける時間配分、学校側のマンパワーなどを検討し、地域に対して提供できるものを話し合い、調整する。こうした過程を経て、学校伝承の実践の形や地域と学校との連携の形が決定されていく。

保存会の活動が活発で、地域の伝承力に余裕がある場合、地域をベースとした伝承に主眼が置かれる。学校で民俗芸能を取り上げる目的は、民俗芸能の伝承そのものというよりは、地域を学ぶための教材の一つとされる。地域側の、学校で民俗芸能に触れる機会を作ってほしいという考えと、学校側の地域学習のための教材として民俗芸能を利用したいという思いが重なった時、こうした学校伝承の実践の形がとられる（高川原勇獅子や立江八幡神社祇園囃子の事例）。

地域（保存会）主体で民俗芸能を伝承していく余裕がない場合、学校に伝承の主体を移行してでも存続させようという動きがみられる。学校側は地域の希望を受け入れ学校伝承を行う一方で、地域を学ぶ「教材」として民俗芸能を利用する（一宇の雨乞い踊りや案内神社の獅子舞の事例）。

今回の調査で、学校伝承を進めるに当たり、地域と学校を繋ぐ人物の存在が大きな役割を果たしていることがわかった。その存在の有無は、学校と地域の連携の形を大きく左右する。足代の獅子舞の事例では、学校と地域を繋ぐ人物が不在となり、学校と地域との関係が途絶えてしまった。その結果、足代小学校では子どもが扱いやすいように獅子舞を大きくアレンジ、簡略化し、学校行事として受け継ぐようになった。高川原勇獅子のように保存会会員が学校教員として勤務し、民俗芸能の指導に当たるなど、地域と学校を繋ぐキーパーソンが存在する事例では、学校と地域の連携は密なものとなっている。

このように、民俗芸能の学校伝承においては、保存会の活動状況など地域の状況やそれをベースにした民俗芸能伝承に対する考え、教育機関として学校が民俗芸能に求めるもの（民俗芸能を利用する目的）が交錯する中で、学校の中での民俗芸能の扱いや、地域と学校の連携の体制などを、学校と地域を繋ぐ人物を中心に調整しながら、地域と学校の負担が最小限になるべく、持続可能な伝承のかたちが模索されているのである。なお、本研究で得られた知見は、全国各地における民俗芸能の伝承の現場において活用可能と考えられる。

<引用文献>

レイヴ、ジーン＆ウェンガー、エティエンヌ『状況に埋め込まれた学習－正統的周辺参加』佐伯胖訳、産業図書、1993 年
セルトー、ミシェル・ド『日常的実践のポイエティーク』山田登世子訳、筑摩書房、2021 年

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 高橋　晋一	４．巻 63
２．論文標題 地域から学校へ－船津太刀踊りにおける伝承母体の変化をめぐって	５．発行年 2021年
３．雑誌名 阿波学会紀要	６．最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋　晋一	４．巻 19
２．論文標題 板野郡松茂町の祭りと民俗芸能(2)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 徳島地域文化研究	６．最初と最後の頁 61-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋　晋一	４．巻 18
２．論文標題 三好市三野町の祭りと民俗芸能(1)	５．発行年 2020年
３．雑誌名 徳島地域文化研究	６．最初と最後の頁 77-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋　晋一・川内　由子	４．巻 64
２．論文標題 小松島市の祇園囃子	５．発行年 2023年
３．雑誌名 阿波学会紀要	６．最初と最後の頁 85-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関